

東北地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

分担研究者：伊藤俊広（国立病院機構 仙台医療センター）

研究協力者：太田貴、高橋幸二（やろっこ）、小浜耕治（東北 HIV コミュニケーションズ）、佐藤功、塚本琢也、鈴木智子、武藤 愛、中村 恵、佐々木晃子、伊藤ひとみ（国立病院機構 仙台医療センター）、塩野徳史、金子典代、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

平成 23（2011）年度～25（2013）年度の 3 年間、仙台市繁華街のドロップイン施設（community center ZEL：平成 22 年 3 月開設）が活動拠点となり、東北地域の MSM における HIV 感染拡大抑制のための企画立案・実施・評価研究がなされた。平成 22 年度の終り（2011. 3. 11）に東日本大震災が発生し、本研究はその復興期の初期 3 年と重なる。平成 23 年度は震災による影響でゲイコミュニティにおけるイベントの中止、ゲイビーチの喪失、商業施設の減少、コンドーム配布数減少（4, 250 個→1, 950 個）等が見られ、アウトリーチ活動に制限が生じた。しかし、ZEL 来館者は会館時間を延長することにより増加、GCQ アンケートによれば HIV 抗体検査の過去 1 年間の受検率が 32%と最高値を呈した。平成 24 年度は復興需要に合わせ仙台市への人口流入が生じ、HIV 感染拡大が懸念された。ZEL 来館者は 1, 332 名（H24. 12 月）と前年度同時期の 91%にとどまり、新規来館者数も 59%と減少した。情報提供のための ZEL 新規企画：「HIV 陽性者と語ろう」は、毎回 HIV 陽性者の参加があり、陽性者と話す機会の少ない MSM にとってニーズを満たす企画となった。他県（岩手/盛岡市）へも啓発範囲を拡げ、HIV 即日検査会の MSM 向け告知資材（フライヤー）を同市商業施設に配布できた。さらに定期的コンドーム配布に加えハッテン場での配布も開始した。保健所検査受検者を対象にした質問紙調査やインターネット横断調査・追跡パネル調査（GCQ アンケート）により仙台市の MSM 特性、広報資材の認知度が明らかとなり、MSM の HIV 抗体検査の過去 1 年間の受検率が最高（35%）となっていること、コンドーム常用率が 30～55%と低く特に友達やセフレで使用割合が低くなることが解った。震災から 3 年目の平成 25 年度は、仙台市への人口流入が依然として続いており、HIV 感染拡大が懸念されるもののその兆候はみられていない。ZEL の周知を考慮したフリーペーパーや、コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成配布、種々のイベント・バレーボール大会などを介して啓発活動が行われ、平成 24 年度と同様の保健所検査受検者を対象とした質問紙調査や GCQ アンケートによれば、仙台市保健所検査受検者における MSM の割合が漸増しているだけでなく、仙台市 HIV 即日検査会においても MSM の割合が著増しており、コミュニティセンターを中心とした啓発活動の有用性が高まった。東北地域の高い「いきなり AIDS」率は以前から指摘されているが、平成 23～25 年度の 3 年間で東北において報告された新規 HIV 感染者は 87 人（累計数 408 人→495 人）、「いきなり AIDS」率は 40%を越えている。この間、各県では中核拠点病院の整備が進むとともに HIV 抗体検査の算定要件が改訂され、HIV 診療の 2 極化の是正と抗体受検数増加が期待された。幸運なことに感染者の爆発的な増加のきざしはないが、AIDS 発症率を低下させるためには性感染症（梅毒、B 型肝炎、クラミジア等）を意識して検査アプローチを図るだけでなく、あらゆる機会をとらえて抗体検査を実

施していく必要がある。また、感染拡大を抑制していくには抗体検査の実施機会を増やし早期診断を促し早期に治療をおこなうことにより 2 次感染を抑える必要がある。MSM を対象とした啓発活動はさらに重要性を増している。

A. 研究目的

HIV 感染症の拡大を抑止するためには MSM に対する積極的なアプローチが必要である。効果的な HIV 感染予防対策のため、MSM を対象に種々の企画を立案・実施し、さらにその評価を的確に行うための体制整備に関して研究を行う。平成 23～25 年度の 3 年間、東北地域における研究について分担した。

B. 研究方法

「仙台医療センター」、平成 5 年より HIV に関わる活動をしている NPO「東北 HIV コミュニケーションズ (THC)」、ゲイコミュニティ向けの HIV 啓発チーム「やろっこ」の三者を中心として、行政、医療、福祉、コミュニティ等と協働して東北地域における男性同性間の HIV 感染対策（下記 1～4 の事項）について、介入、企画実施、調査・研究を行なった。特に 3. のゲイコミュニティへの啓発活動として、community center ZEL の運営、啓発資料の作成・配布、HIV を身近に感じるためのイベントの開催、ゲイコミュニティを対象としたアンケート調査を行った。また、保健所の HIV 検査受検者を対象とした質問紙調査を行い、検査受検者の特徴や差異を把握した。

1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め
2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複性感染症 (STD: sexually transmitted disease) の解析
3. ゲイコミュニティへの啓発活動
4. MSM における行動科学調査及び介入評価研究

C. 研究結果

東北ブロックにおける HIV 感染者・AIDS 患者の累積数は平成 25 年 9 月時点で 495 名と報

告され、3 年間で 87 名増加した (図 1)。

仙台医療センターの受診者の内訳 (H25. 12 月末まで) をみると (図 2)、感染経路別頻度に変化はみられず、東北においても MSM 対象の介入研究の重要性は変わらない。

図 1

東北県別エイズ/HIV感染者累積数推移
(非血友病): 総計495人(H25.9月)

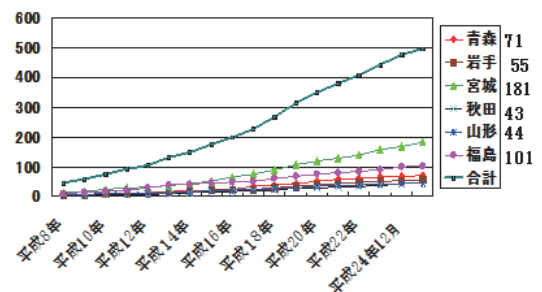
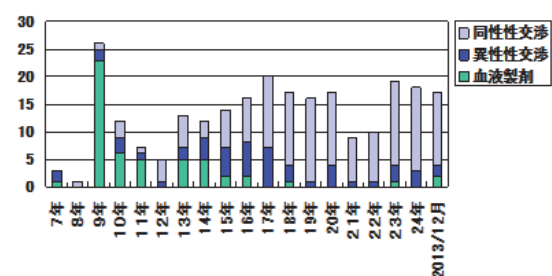


図 2

仙台医療センター新患者数推移
総計252人(血液53、同性148、異性51、女性23)
H25.12月



1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め

HIV 感染症は STD であることから種々の STD の診断を HIV 抗体検査の機会ととらえ検査件数の増加を促し、早期診断に結び付けることが必要である。

以下に記す種々の研修会・会議を通して医療従事者に対して、改定内容を周知すること

により積極的な HIV 検査の必要性について情報提供するとともに、行政とも連携し抗体迅速検査も実践した（開催時期、参加者数は省略：各年度報告参照）。

1) ブロック拠点・中核拠点・拠点病院連携（医師・歯科医師・看護師・薬剤師対象）

東北エイズ/HIV 看護研修、東北エイズ歯科診療協議会・連絡会議、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議、東北エイズ/HIV 拠点病院等薬剤師連絡会議、東北エイズ臨床カンファレンス、東北 HIV ネットワーク会議、宮城県歯科医師会 HIV 研修、東北エイズ中核拠点病院歯科連絡会議、HIV/AIDS 臨床検討会、宮城県 HIV/AIDS 学術講演会

2) 心理・MSW 連携

東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議、HIV 感染者の挙児希望にかかるカウンセリング体制整備会議

3) 行政連携

HIV 迅速検査会（仙台市主催）、仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会（仙台市主催）、仙台医療センター健康まつり即日検査会

4) 介護福祉連携

AIDS/HIV 感染症出張セミナー、H25 年度 HIV 感染者・エイズ患者の在宅医療、介護環境整備事業実地研修

5) 啓発・教育

岩手の高校生、大学生を対象に講義、院内新人オリエンテーション、山形病院附属看護学校講義

6) その他（別主催研修/会議出席、講演など）

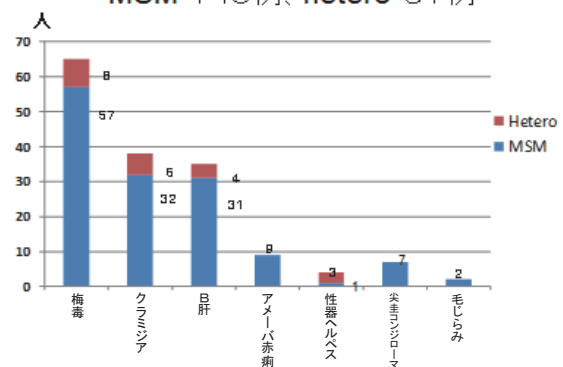
ACC 看護研修、ACC/ブロック拠点病院看護管理者会議、ACC/ブロック拠点病院実務担当者フォローアップ研修、ACC/ブロック拠点病院実務担当者会議、全国中核拠点病院連絡調整

員会議、2013 AIDS 文化フォーラム in 横浜、HIV/AIDS ブロック拠点病院薬剤師連絡会、第 51 回抗 HIV 薬服薬指導のための研修会、第 23 回日本医療薬学会、etc.

2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複 STD の解析

重複 STD の解析（図 3）では、MSM における STD 重複感染率（特に梅毒、クラミジア、B 型肝炎）が非常に高い。本調査がカルテベースの後ろ向き調査であることを考えると、実際の重複感染率は、さらに高値を呈するものと思われる。

図 3 HIV/STD 重複感染（2013. 12 月）
MSM 148 例、hetero 51 例



3. ゲイコミュニティへの啓発活動

MSM を対象とした community center ZEL（以下、ZEL）は、2010 年 3 月 20 日に仙台の繁華街である国分町に開設され、仙台で MSM を対象に HIV の情報を届けるボランティアグループ「やろっこ」が運営を担っている。仙台を中心とするゲイコミュニティだけでなく地方に住む MSM に対しても HIV に関する情報提供を行ってきた。


平成 23 年度 1,896 名、24 年度 1,681 名、25 年度は 12 月末現在で 1,422 名の来場者があった。24 年度の同期間：12 月末（1,332 名）と比べ 107% と増加している。25 年度の新規来館者数は 12 月末現在 107 名で、こちらも 24 年度の同期間（81 名）と比べ 132% と増加している。25 年度は、ZEL の周知のため、イラ

スト展など集客力のある企画を行ったことにより、来場者総数、新規来場者数が増加したと考えられる。24年度以降、ZELでは、HIVに関連した冊子やコンドームを配布することに加え、様々なイベント等を通してHIVに関する情報提供を行った。震災後、宮城県、特に仙台市では、復興需要から流入人口が増加していることから、25年度は転入者を対象にZELの周知とHIVの情報提供を行う「仙台デビュー」を年4回実施し、のべ33名の参加があった(図4,5)。

啓発資材の配布としては、24年度に引き続き、25年度も仙台市エイズ即日検査会のMSM向け広報資材(ポスターとカード)をガイバーなど、MSM向けの商業施設に配布し、HIV検査の啓発を行った(図6)。

図4

community center ZELのプログラム



- **仙台デビュー**
新規来館者獲得のための友達づくりイベント
対象: 仙台で新生活を始めるMSM、ネット利用層・コミュニティ非利用層のMSM
年4回実施(4/27 12名、7/13 7名、10/12 8名、1/25予定)
- **R-35 35歳からのGAY LIFE**
中高年層の来館促進と中高年層のセクシャルヘルス向上を目的としたイベント
対象: 35歳以上の中高年ゲイ男性
年2回実施(5/18 11名、2月予定)
- **HIV陽性者と語ろう**
HIV陽性者の話を聞くイベント。HIV陽性者の現状等の情報提供を行う。
対象: HIV/AIDSに関心のある人、HIV陽性者が身の回りにいない人など
年2回実施 → 年1回実施(8/10 10名)
- **その他**
新規来館者獲得のためのイラスト展、作品展などを実施(5月、8月、9月、12月)

図5


community center ZEL 年間活動と来場者数

月日	イベント等	人数	月日	イベント等	人数
4/27	仙台デビュー	12	9/21	クラブイベント(アウトリーチ)	55
4/28	フリーペーパー vol.17発行		9/22-30	カツ割れ展 RETURNS	62
5/4	パレー大会(アウトリーチ)	150	9/30	HIV検査担当者研修	15
5/4	クラブイベント(アウトリーチ)	86	10/12	仙台デビュー秋	8
5/18	R-35 35歳からのGAY LIFE	11	10/28	パレー大会(アウトリーチ)	150
5/21-6/11	めんたいこイラスト展	76	10/28	フリーペーパー vol.19発行	
6/1	仙台市エイズ即日検査会	20/71	11/30	Living Together in SENDAI	57
7/13	仙台デビュー夏	7	12/2-17	SUVイラスト展	
7/28	フリーペーパー vol.18発行		12/7	仙台市エイズ即日検査会	
7/28	コンドーム使用ポスター配布	1/25	1/25	仙台デビュー冬	
8/9-27	カツ割れ展	112	1/28	フリーペーパー vol.20発行	
8/10	Living Together in SENDAI	67	2/15	R-35 35歳からのGAY LIFE	
8/10	HIV陽性者と語ろう	10	3/20	ZEL活動報告会	

図6

コンドーム使用を呼びかけるポスター・カードの作成・配布

そろそろ「どあえず生」を卒業しよう。



その場の雰囲気や相手に流されてコンドームを使わない「生」を選択しているMSMへ、コンドーム使用を呼びかけるメッセージを掲載したポスター。
【作成数】ポスターA3版 40部
カードA6版 1,000部

【配布時期】ポスター 7月下旬～配布開始 カード 10月下旬～配布開始
【配布先】
東北地域のMSM向け商業施設(31軒)、クラブイベント、パレー大会
全国のcommunity center等
※community center ZELフリーペーパーvol.18(7月下旬発行、部数1,200部)でも同じ内容の特集記事を掲載。

仙台市のHIV検査については、ZELが平成22年の開館以来定期的に発行しているフリーペーパー(25年度は年4回発行)にも情報を掲載し、HIV検査の受検促進をはかってきた。

保健所HIV検査受検者に対するアンケート調査によれば、仙台市のHIV抗体検査受検者に占めるMSMの割合は、通常検査、即日検査会とも増加傾向にある(表1,2)。

表1. 仙台市HIV抗体検査の受検者に占めるMSMの割合

2008	2009	2010	2011	2012
4.5%	5.0%	5.8%	7.5%	10.1%

表2. 仙台市エイズ即日検査会の受検者に占めるMSMの割合

2010 12月	2011 12月	2012 6月	2012 12月	2013 6月
10%	15%	9%	19%	28%

また、25年度は新たに、岩手県の保健所で実施されているHIV検査のMSM向け広報資材(ポスターとカード)を作成し、盛岡市内のMSM向け商業施設に配布。盛岡市保健所のHIV検査広報資材の配布にも協力し(図7)、仙台市内のガイバー・ハッテン場への定期的なコンドーム配布に加え、秋田市内のガイバー1軒でもコンドーム配布を開始し、4月から12月までの9ヶ月間でガイバーとハッテン場の

計 16 軒で、3,900 個を配布した（図 8）。

平成 25 年度はコンドームの配布に加え、コンドームの使用を促すための資材（ポスターとカード）を作成、7 月末より東北全域の MSM 向け商業施設 32 店舗に配布した。

図 7 HIV抗体検査受検促進のための MSM向け資材作成・配布

- 仙台市HIV検査会(6/1および12/7)
カード500~700部/1回 ポスター30~50部/1回
【配布時期】
1回目:5月~配布開始(6/1検査会告知)
2回目:9月~配布開始(12/7検査会告知)
【配布先】
仙台市内のMSM向け商業施設(14~15軒)
クラブイベント バレー大会
仙台市内の保健所 等
- 岩手県の保健所検査
カード500部 ポスター30部
【配布時期】10月~配布開始
【配布先】
岩手 MSM向け商業施設(5軒)
community center ZEL



図 8

コンドーム・アウトリーチ



- 仙台市内のMSM向け商業施設17店舗中15軒への定期的なアウトリーチ
- 秋田県内のMSM向け商業施設1店舗への郵送
- クラブイベント
(年2~3回 5/4、9/21)



- バレー大会でのアウトリーチ(年2回5/4、10/26)

4. MSMにおける行動科学調査及び介入評価研究

ゲイコミュニティに対するアンケート調査として、クラブイベントおよびバレーボール大会と連携した web アンケート「コミュニティネットワークを用いたMSMを対象とする性の健康、HIV/AIDS 感染予防行動に関する質問紙調査-GCQ アンケート」(以下、GCQ アンケート)を平成 25 年 5 月に実施し、161 件の有効回答を得た(全国の同時期のアンケートの東北分回答者を含めると 182 件の有効回答)。GCQ アンケートでは、HIV 検査の過去 1 年間の受検率が 29.1%と平成 24 年度の 35.3%より減少した(表 3)。

表 3. 過去 1 年間の HIV 抗体検査受検率の推移

2009	2010	2011	2012	2013
29.1%	23.3%	29.9%	35.3%	29.1%

年代別にみると、25 歳~39 歳の年代では、30%以上が過去 1 年間に HIV 検査を受検しているが、24 歳以下の若年層が 26.1%、40 歳以上の中老年が 19.6%と低くなっている(表 4)。

表 4. 年代別にみた過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率

24 歳以下	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	40 歳以上
26.1%	41.0%	31.8%	31.0%	19.6%

コンドームの常用率については、友達やセクフレ相手では 2012 年より使用割合が高くなったものの、その他では 2012 年度よりも使用割合が低くなった(表 5)。

表 5. コンドームの常用率(過去 6 ヶ月)

セックスの相手	2012	2013
彼氏や恋人相手	48.9%	27.5%
友達やセクフレ相手	30.9%	55.3%
その場限りの相手	54.5%	35.3%

D. 考察

仙台市の HIV 抗体検査受検者に占める MSM の割合の増加は、MSM 向けに行ってきた検査広報資材の作成・配布が成果を上げてきているものと考えられる。

しかしながら、40 歳以上で過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検経験が低くなっている。東北地域では「いきなりエイズ」の割合が高く(動向調査によれば平成 25 年は 9 月の時点ですでに 47%台の値を呈している)、中でも中高年での割合が高くなっている。こうした現状を考えると、例年同様、種々の職種における研修会・研究活動を活発化し、HIV 感染症について意識を高め HIV 抗体検査実施件数を増やすとともに感染予防の啓発をすすめていく必

要があり、特に中高年の MSM に向けた HIV 検査の受検促進の取り組みが必要と考えられる。

また、アンケートの結果を見ると、コンドームの使用率が低くなっている。平成 25 年度に行ったコンドーム使用を呼びかける資材の作成・配布の効果についてはまだ検証できていないが、今後もコンドーム使用を広める取り組みを継続的に行っていく必要がある。

E. 結語

東北地域のゲイコミュニティへ向けた啓発（企画、実施、評価）の体制作りが ZEL を中心とした活動により進みつつあり、保健所受検者の中で MSM の占める割合が増加してきている。コミュニティを中心とした啓発活動の結果と考えられる。今後も東北地域の MSM との接触機会を増やし活動範囲を広げ、HIV 感染拡大に対する予防啓発活動を積極的に進めていく必要がある、協力可能な NGO と連携を強め、MSM におけるゲイコミュニティの理解を得つつ、より効果的なプログラムを開発・提供し、彼らの行動変容が可能になるようにしてゆく必要がある。そのためには戦略的に行政等の機関への提言を行い、より広い連携体制を継続的に構築してゆくことが今後も求められる。

F. 発表論文等

（○印は当研究班に関連した発表論文等）

（論文発表）

1. ○Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan: Sexual Health 8(1): 123-124, 2011

（学会発表）

1. 伊藤俊広：HIV 感染症の見つけ方—インフ

ルエンザ様症状や悪性リンパ腫等に潜む HIV を見逃さないために—（シンポジウム 32 免疫機能低下時の感染管理），第 23 回日本医療薬学会年会，仙台，2013

2. ○金子典代，塩野徳史，健山正男，山本政弘，鬼塚哲郎，内海眞，伊藤俊広，岩橋恒太，市川誠一：MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討，第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013
3. 佐藤麻希，山本善彦，阿部憲介，水沼周市，小山田光孝，伊藤俊広：災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討—第 2 報—震災・被災 HIV 患者アンケート調査から考える未来への備え—，第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013
4. ○太田貴，高橋幸二，伊藤俊広，塩野徳史：東北地方の MSM を対象とした HIV 抗体検査の受検促進のための取り組み，第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013
5. ○牧園裕也，荒木順子，石田敏彦，太田貴，金城健，後藤大輔，伊藤俊広，内海眞，鬼塚哲郎，山本政弘，健山正男，塩野徳史，金子典代，市川誠一：MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討，第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本市，2013
6. 重見麗，服部純子，蜂谷敦子，瀧永博之，渡邊大，長島真美，貞升健志，近藤真規子，南留美，吉田繁，森治代，内田和江，椎野禎一郎，加藤真吾，千葉仁志，伊藤俊広，佐藤武幸，上田敦久，石ヶ坪良明，古賀一郎，太田康男，山元泰之，福武勝幸，古賀道子，岩本愛吉，西澤雅子，岡慎一，松田昌和，林田庸総，横幕能行，上田幹夫，大家正義，田邊嘉也，白阪琢磨，小島洋子，藤井輝久，高田昇，高田清式，山本政弘，松下修三，藤田次郎，健山正男，杉浦互：新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向，第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会，熊本

- 市, 2013
7. 阿部憲介, 佐藤麻希, 小山田光孝, 塚本琢也, 伊藤ひとみ, 佐藤功, 伊藤俊広: 薬剤性腎機能障害により cART 変更となった一症例—薬剤変更のトリガーとしての腎障害—, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 8. 山本善彦, 佐藤功, 伊藤俊広: 仙台医療センターにおける HIV 感染患者の合併慢性感染症の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 9. 須貝恵, 吉田緑, センテノ田村恵子, 鈴木智子, 辻典子, 井内亜紀子, 濱本京子, 田邊嘉也, 伊藤俊広: 拠点病院診療案内からみる拠点病院の現状, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 10. 伊藤俊広: HIV 感染症の見つけ方—インフルエンザ様症状や悪性リンパ腫等に潜む HIV を見逃さないために— (シンポジウム 32 免疫機能低下時の感染管理), 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 11. 佐藤麻希, 山本善彦, 阿部憲介, 水沼周市, 諏江裕, 伊藤俊広: 災害時に対応した抗 HIV 薬供給と服薬支援策の検討—東北ブロック中核拠点病院・拠点病院薬剤師間のさらなるネットワーク構築の第一歩—, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 12. 阿部憲介, 佐藤麻希, 佐藤功, 諏江裕, 伊藤俊広: 当院における TDF 関連高 CK 血症の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 13. 服部純子, 瀧永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 林田庸総, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 佐藤典宏, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会, 横浜市, 2012
 14. 服部純子, 椎野禎一郎, 瀧永博之, 林田庸総, 吉田繁, 千葉仁志, 小池隆夫, 佐々木悟, 伊藤俊広, 内田和江, 原孝, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 近藤真規子, 長島真美, 貞升健志, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 加藤真吾, 藤井毅, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 渡辺香奈子, 渡邊大, 白阪琢磨, 小島洋子, 森治代, 中桐逸博, 藤井輝久, 高田昇, 木村昭郎, 南留美, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 15. 椎野禎一郎, 服部純子, 瀧永博之, 吉田繁, 伊藤俊広, 上田敦久, 近藤真規子, 貞升健志, 藤井毅, 横幕能行, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡邊大, 森治代, 藤井輝久, 南留美, 健山正男, 杉浦互: 国内感染者集団の大規模塩基配列解析 2: Subtype B の動向と微小系統群の同定, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 16. 菊池嘉, 遠藤知之, 宮城島拓人, 伊藤俊広, 中村仁美, 田邊嘉也, 上田幹夫, 横幕能行, 渡邊大, 藤井輝久, 南留美, 健山正男: 多施設共同疫学調査における HAART の有効率 2010, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 17. 伊藤俊広, 山本善彦, 塚本琢也, 佐藤功: 初診時エイズ発症本善 HIV 感染症例 (いきなりエイズ) に関する検討, 第 25 回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011
 18. 山口泰, 仁木孝行, 伊藤俊広, 山本善彦, 佐

藤功：拠点病院における歯科治療の意義
—多発カリエス患者とチームアプローチ
の検討—, 第 25 回日本エイズ学会学術集
会・総会, 東京, 2011

19. 塚本琢也, 佐藤麻希, 阿部憲介, 鈴木智子,
武藤愛, 伊藤ひとみ, 佐藤功, 山本善彦, 伊
藤俊広：災害発生時における HIV 医療従
事者と患者の対応と備えの在り方につ
いて：東日本大震災の経験から, 第 25 回日
本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2011